

# 令和 7 年度 事業計画書

## 1. 財務体質の強化

昨年度も役員・職員・館生が一体となり、収入増と経費削減に取り組んだ結果、期末の現預金残高は 13 百万円となり、潤沢な運転資金を確保できる見込みです。今年度も業務改革の手綱を緩めることなく、さらなる財務体質の強化に取り組んでまいります。

毎期末に引当てる大規模修繕積立金については、一昨年度より 50 万円から 150 万円に増額しました。また、駐車場修繕積立金も年 50 万円を復活させ、将来の大規模修繕に備えます。

## 2. 館生 40 名体制の確保

昨年度は推薦入試に対応した早期の募集活動が功を奏し、12 名の新入館生を迎え満室とすることができました。今後は、少子化の加速など時代の流れを先読みしながら応募資格の見直しを模索し、募集広報活動の改善や最適な入館面接時期の設定などにより、安定的な館生確保に努めてまいります。

## 3. 法人組織運営の若返り

現役員の高齢化が進んでおり、若い世代への交代が急務となっています。今後は、自覚と責任を持って運営に携われる若手理事の選任を着実に進めます。そのため、卒館生の中から経営や地域活動に関心のある人材を積極的にリクルートし、理事候補として育成します。また、現役員と若手候補者が意見交換できる場を設け、円滑な世代交代を図ります。

## 4. 行事内容の見直し

館生との意見交換・協議を継続し、役員側の負担が大きかった行事内容を見直します。館生が主体となって企画・実行し、前向きかつ積極的に参加できる行事(記念祭、セミナーなど)を支援していきます。

## 5. 育英事業協力金の継続取組

法人会員会費の確実な納入フォローを行うとともに、卒館生への協力金納入要請をあらゆる機会を活用して実施します。特に現役世代の卒館生の関心が薄く、将来的に協力金先細りになることが懸念されるため、卒退館時に一括回収するなど、納入方法についても検討を進めます。今年度の目標額は 260 万円とします。